

第115回: 所感、雑感、違和感

4月3日の新華社電によると、この日北京市内で恒例の植樹祭が行われたという。禿山だらけの中国で、いまさら植樹に血道を上げて手遅れのような気がしないでもない。なにしろ数千年ものあいだ伐採を続け、植樹をさぼってきたため、悠久の歴史を育んできた黄河がいま内陸河川になりつつある。植樹の記事自体に興味はないが、読み飛ばせなかったのは行事の参加メンバーが気になったからである。

この行事に、中国の指導者の大半が参加した。党政治局常務委員は全9名が参加、政治局委員(16名)で欠席したのは地方勤務者の俞正声(上海)、汪洋(広東省)、張高麗(天津)、張徳江(重慶)、そして欧州に出張中の回良玉。これで北京勤務の指導者は全員参加かと思ったら一人だけ欠席者がいた。閉門蟄居と噂される薄熙来である。これで彼の失脚は確実となった。

ここまでは予想通りだが、新華社が発表した“その他の参加者”の顔触れが、なかなか示唆に富んでいる。政治局委員の次に名を連ねたのは党書記処の書記である何勇、令計画の二人。彼らは政治局の準構成員だから報道されるのは当然だ。因みに残る一名の書記の王滬寧書記は欠席したが、胡錦濤たちがスコップを担いで外出する中、彼が中南海で留守番をしたのだろう。一寸違和感を覚えたのが参加者の最後に登場した国務委員の孟建柱と梁光烈。前者は公安相、後者は国防相である。同じ国務委員でも馬凱(監査・会計担当)と戴秉国(外交担当)の名前は発表されなかった。今秋の共産党大会に向け、内部で権力闘争が繰り広げられており、そんな状況下で暴力装置を握る強面の二人をわざわざ登場させたにはそれなりの意味がありそうだ。薄熙来は今秋、常務委員に昇格して公安・司法を司る政法委員会書記のポストを狙っていた。彼の野望は南柯之夢と消えたが、このポストを誰が射止めるかがいま注目されている。政法委の指導者にはそれなりの知識と経験が要求され、経験者は王樂泉(政治局委員)と孟建柱の二人だけである。しかし、王樂泉は2009年のウルムチ暴動で手傷を負う身であり、年齢も68歳と高齢であり常務委員昇任は難しいだろう。一方江沢民派の孟建柱を飛び級で二段階昇格させ、政治局常務委員に抜擢する理由は更に乏しく、この人事も難しそうだ。最終的に共青团派で敵の少ない李源朝(組織部長)に落ち着くと思われる。何れにしても、ソーセージと法律を作る過程は見ない方がよいというのが国際政治の常識である。

18回大会で注目されるのが人民解放軍の人事である。中国共産党中央軍事委員会は胡錦濤、習近平の文民2人と制服組10名の合計12名で構成されている。その10名の軍人から徐才厚と郭伯雄の二人が政治局入りして軍を代表している。(制服組はここまでで、常務委員には届かない)

この10名の多くが今年、68歳ルールで退官し、残留が可能なのは許其亮(空軍司令員・62歳)と呉勝利(海軍司令員・67歳)、常万全(総装備部長・63歳)の3人のみ。今秋は大幅な人事異動がありそうだ。

そのなかで注目されているのが習近平の幼馴染で、劉少奇(元国家主席)の息子の劉源上将(総後勤部政治委員)だ。今年に入り人民解放軍の谷俊山中将(総後勤部副部長)という超大物が汚職容疑で免職となり、これまで司直の手が及ばなかった伏魔殿の人民解放軍に、捜査のメスが入ったことが注目されている。この大胆不敵な摘発の指揮をとったのが劉源だといわれている。

最終ページに重要なお知らせ「注意事項」がありますので必ずお読みください。

最近八面六臂の活躍が目立つ劉源に関し、今秋の政治局入りは間違いなしとの噂も多いようであるが、軍事委員会入りはともかく、彼の政治局入りには違和感がある。文革で迫害された指導者の子弟の多くが政治的な補償を受け、いま各界で活躍しているが、父親が殺された子弟に限っては、復讐劇に踏み込まないため昇格に一定の限度を設けているようだ。その証拠に文革の混乱で実質的に殺害されたといつてよい彭徳懐、賀龍たちの子弟は、一定の職務に就いてはいるが、党政府高官には届いていない。

更に大きな違和感は、劉源は「中途入社組」の軍人であり、出身兵科も傍流である。エリート軍人に必要な経歴は士官学校卒業か、そうでなければいっそのこと一兵卒としての部隊経験である。彼は文革で辛酸を嘗め、北京師範学院を卒業して、地方政府の行政官から人民解放軍に転籍した人物である。

どこの国の軍隊にも本流と傍流がある。帝國陸軍の本流は歩兵である。「歩兵の本領」を歌えば分かる。敵地に一步われ踏めば、軍の主兵はここにあり、最後の決はわが任務、騎兵砲兵協同せよ♪#。劉源の背番号は武装警察、略称「武警(ウージン)」。バカにする訳ではないが、武警とは国内の治安を担う機動隊のような軍事組織だ。帝國陸軍では憲兵や輜重兵から大将への昇進は制度上不可能だった。今年中国では三百万人近い軍人の代表二名が政治局入りすることになるが、兵隊たちの希望はエリート軍人で、且つ主流の歩兵や機甲部隊で育った将官を軍の代表に戴きたい、武警出身者はチョット勘弁して欲しいという。むかし兵站をバカにして敗れた某国の、輜重輸卒が兵隊ならば蝶々トンボも鳥のうちに近い発想だ。

もう一つ違和感を覚えるのが、中国の盟友である北朝鮮の動向である。いよいよ金正恩が北朝鮮労働党総書記に就任するようで、いま国威発揚のセレモニーとしてミサイル発射を急ぎ、周辺関係国を慌てさせている。彼は朝鮮人民軍最高司令官、朝鮮人民軍大将だという。北朝鮮にはいま若干名の元帥と次帥が残っており、元帥の下の大将が最高司令官を勤める不思議さに第一の違和感がある。

第二の違和感は、最近金正恩が積極的に軍隊行事に参加しているが、軍服を着用していないことである。中国の軍最高指揮官は胡錦濤だが彼は軍人ではない。むろん上将でもない。だから彼は軍の行事に平服(階級章を外した軍服)で臨んで構わないのである。しかし階級を有する軍人は軍服着用が常識だ。最後の違和感金は金正恩の「挙手注目の敬礼」だ。これは軍帽着用時の敬礼である。脱帽してもよい室内では、頭を下げる会釈すればそれでよい。ドラマ「坂の上の雲」のなかで、旗艦三笠の会議室で、東郷長官や秋山参謀が互いに会釈していたが、これも軍隊の正式な「敬礼」なのである。(了)

文中の見解は全て筆者の個人的意見である。

平成24年4月6日

筆者プロフィール

杉野光男

東洋証券株式会社 主席エコノミスト

一橋大学商学部卒、三菱信託銀行(現三菱UFJ信託銀行)入社、上海華東師範大学へ留学

同行北京駐在員、上海駐在員事務所長、理事中国担当部長を経て、2007年より現職

著書 日本の常識は中国の非常識(時事通信社)、中国ビジネス笑劇場(光文社)等

最終ページに重要なお知らせ「注意事項」がありますので必ずお読みください。

2/3



東洋証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第121号

日本証券業協会 加入

本社所在地 〒104-8678 東京都中央区八丁堀 4-7-1 TEL03-5117-1040

ご投資にあたっての注意事項

手数料等およびリスクについて

①株式の手数料等およびリスクについて

- 国内株式の売買取引には、約定代金に対して最大1.2075% (税込み) (約定代金が260,869円以下の場合、3,150円 (税込み)) の手数料をいただきます。国内株式を募集、売出し等により取得いただく場合には、購入対価のみをお支払いいただきます。

国内株式は、株価の変動により、元本の損失が生じるおそれがあります。

- 外国株式等の売買取引には、売買金額(現地における約定代金に現地委託手数料と税金等を買いの場合には加え、売りの場合には差し引いた額)に対して最大0.8400% (税込み) の国内取次ぎ手数料をいただきます。外国の金融商品市場等における現地手数料や税金等は、その時々々の市場状況、現地情勢等に応じて決定されますので、本書面上その金額等をあらかじめ記載することはできません。

外国株式は、株価の変動および為替相場の変動等により、元本の損失が生じるおそれがあります。

②債券の手数料等およびリスクについて

- 非上場債券を募集・売出し等により取得いただく場合は、購入対価のみをお支払いいただきます。

債券は、金利水準の変動等により価格が上下し、元本の損失を生じるおそれがあります。外国債券は、金利水準の変動等により価格が上下するほか、カントリーリスク及び為替相場の変動等により元本の損失が生じるおそれがあります。また、倒産等、発行会社の財務状態の悪化により元本の損失を生じるおそれがあります。

③投資信託の手数料等およびリスクについて

- 投資信託のお取引にあたっては、申込(一部の投資信託は換金)手数料をいただきます。投資信託の保有期間中に間接的に信託報酬をご負担いただきます。また、換金時に信託財産留保金を直接ご負担いただく場合があります。

投資信託は、個別の投資信託ごとに、ご負担いただく手数料等の費用やリスクの内容や性質が異なるため、本書面上その金額等をあらかじめ記載することはできません。

投資信託は、主に国内外の株式や公社債等の値動きのある証券を投資対象とするため、当該金融商品市場における取引価格の変動や為替の変動等により基準価格が変動し、元本の損失が生じるおそれがあります。

④株価指数先物・株価指数オプション取引の手数料等およびリスクについて

- 株価指数先物取引には、約定代金に対し最大0.0840% (税込み) の手数料をいただきます。また、所定の委託証拠金が必要となります。
- 株価指数オプション取引には、約定代金、または権利行使で発生する金額に対し最大4.20% (税込み) (約定代金が2,625円に満たない場合は、2,625円 (税込み)) の手数料をいただきます。また、所定の委託証拠金が必要となります。

株価指数先物・株価指数オプション取引は、対象とする株価指数の変動により、委託証拠金の額を上回る損失が生じるおそれがあります。

ご投資にあたっての留意点

取引や商品ごとに手数料等およびリスクが異なりますので、当該商品等の契約締結前交付書面、上場有価証券等書面、目論見書、等をよくお読みください。

最終ページに重要なお知らせ「注意事項」がありますので必ずお読みください。